

# FUJIFILM

汎用超音波画像診断装置

## FC1

## 清掃・洗浄および消毒ガイド

「ユーザガイド(P18102-09A)」より抜粋

富士フイルム株式会社

## 第 8 章 : 洗浄および消毒

本章では、装置本体、プローブおよびアクセサリの洗浄および消毒手順について最新の情報を提供します。

お手元の装置本体、プローブおよびアクセサリを洗浄および消毒する際には、FUJIFILM SonoSite 社が推奨する方法に従ってください。周辺機器の洗浄および消毒に関しては、それぞれの製造元の取扱説明書の記載に従ってください。

装置本体およびプローブは検査後毎回、洗浄・消毒しなければなりません。手順の一部を省略することなく、以下の手順に従って洗浄および消毒を行うことが重要です。

プローブの写真はウェブページで確認できます。 [www.sonosite.com/transducers](http://www.sonosite.com/transducers)

### 洗浄・消毒の準備

- ▶ 保護用ゴーグルや手袋等、消毒剤製造元が推奨する適切な個人用保護具 (PPE) を着用してください。
- ▶ 装置本体を点検し、腐食、変色、凹み、または密閉部分の亀裂等、許容すべきでない劣化がないことを確認します。損傷が明らかな場合には使用を中止し、当社または選任製造販売業者までご連絡ください。
- ▶ 特定の洗浄剤および消毒剤の使用に関しては、貴機関において適切な薬剤であることを確認してください。当社は FUJIFILM SonoSite 超音波画像診断装置およびプローブに使用可能な洗浄剤および消毒剤の検証を行っています。
- ▶ 本章で説明する洗浄・消毒方法は、その有効性および製品との適合性を基に当社が推奨する方法です。
- ▶ 消毒剤の種類、溶液の濃度および浸漬時間が機器ならびに臨床用途に適切であることを確認してください。

- ▶ 薬剤の準備、使用、および廃棄方法については、製造元の推奨事項ならびに地域の規制に必ず従ってください

### 警告

洗浄剤、消毒剤および消毒ワイプの使用期限が切れていないことを確認してください。

洗浄剤および消毒剤の中には、ヒトによってはアレルギー症状を引き起こす恐れがあります。

### 注意

洗浄剤または消毒剤が、装置のコネクタ部やプローブのコネクタに浸入しないようにしてください。

外表面を損傷する恐れがあるため、シンナーやベンジン等の強力な溶剤や研磨クリーナは使用しないでください。当社が推奨する洗浄剤または消毒剤のみを使用してください。

## 要求される洗浄・消毒レベルの決定

### 警告

本章で説明する洗浄方法は、米国食品医薬品局（FDA）が定める要件に基づいています。手順通りに洗浄することを怠ると、相互汚染や患者感染を発生する恐れがあります。

要求される洗浄・消毒レベルは、検査中に接触する組織の種類により決まります。表 1 を使用して、要求される洗浄・消毒レベルを決定します。

表 1: 洗浄・消毒方法の選択

装置本体またはプローブは創のある皮膚、血液、粘膜、または体液に接触しましたか。

はい

創のある皮膚、血液、粘膜、または体液に接触しました。



Option **A**

「装置本体およびプローブのハイレベル（高水準）洗浄および消毒（セミクリティカル用途）」（493 ページ）を参照してください。

または

## 表 1: 洗浄・消毒方法の選択

装置本体またはプローブは創のある皮膚、血液、粘膜、または体液に接触しましたか。

**いいえ** 創のある皮膚、血液、粘膜、または体液への接触はありませんでした。



### Option **B**

「装置本体およびプローブのローレベル（低水準）洗浄および消毒（ノンクリティカル用途）」（499 ページ）を参照してください。

## スポルディング分類

スポルディング分類（ノンクリティカルまたはセミクリティカル）とは、医療機器の種類、臨床用途および感染リスクを基に、医療機器の洗浄および消毒レベルを判断するツールです。装置本体およびプローブの使用方法はその設計により、スポルディング分類のノンクリティカルまたはセミクリティカルに分類されます。

## Option **A** 装置本体およびプローブのハイレベル（高水準）洗浄および消毒（セミクリティカル用途）

装置本体およびプローブが創のある皮膚、血液、粘膜、または体液に接触した場合には必ず、以下の手順に従って洗浄し、ハイレベル消毒を行ってください。

洗浄剤および消毒剤の使用方法については、必ず製造元の指示に従ってください。以下の手順に含まれる洗浄剤および消毒剤の装置本体およびプローブに対する化学的適合性ならびに有効性は検証済みです。特定の洗浄剤および消毒剤の使用に関しては、貴機関において適切な薬剤であることを確認してください。

### 警告

感電を防止するため、洗浄の前に装置本体を電源から切り離してください。  
保護用ゴーグルや手袋等、薬剤製造元が推奨する適切な個人用保護具 (PPE) を着用してください。

## 注意

洗浄・消毒手順のいかなる部分も省略したり、飛ばしたりしないでください。

洗浄剤や消毒剤は装置本体表面または本体のコネクタ部もしくはプローブコネクタに直接噴霧しないでください。液体が内部に浸入し損傷を来とし、保証が無効になる恐れがあります。

本章に記載されていない消毒方法や消毒剤でプローブやプローブケーブルを消毒しないでください。プローブの損傷および保証が無効になる恐れがあります。

当社が推奨する消毒剤のみを使用してください。推奨されていない消毒剤を使用したり、不適切な濃度で使用すると、装置本体またはプローブの破損の原因となり、保証が無効になる恐れがあります。溶液濃度に関しては、消毒剤製造元の推奨事項に従ってください。

## 注

装置本体およびプローブは使用後毎回、洗浄および消毒しなければなりません。但し、ハイレベル消毒ができるのはプローブのみです。

### 装置本体およびプローブを洗浄・消毒する

- 1 電源ボタンを押して、装置本体の電源を切ります。
- 2 電源コードをコンセントから抜き取ります。
- 3 プローブカバーを使用した場合には、取り除きます。
- 4 装置本体からプローブを取り外します。装置本体を洗浄中、他の清潔な機器や表面を相互汚染することがない場所に一時的にプローブを置きます。
- 5 装置本体の外表面を洗浄し、残留物または体液を除去します。以下の手順に従います。

- a ウェットワイプまたは洗剤もしくは消毒剤で湿らせた柔らかい布を使用します。承認された洗剤リストから選択してください。

### 装置本体への使用が承認されている洗剤・消毒剤

洗剤・消毒剤	最低限の湿潤接触時間 <sup>a</sup>
SaniCloth AF3 <sup>b</sup>	3分
SaniCloth Plus	3分
PI-Spray II	10分

a 最大限の有効性を得るためには、洗浄する機器の表面は、所定の最低湿潤接触時間、消毒剤で濡れた状態に保たなければなりません。

b マイコバクテリアに対する中水準の消毒剤として認められています。更に詳細な洗剤および消毒剤のリストは洗浄・消毒に関する文書に記載されており、ウェブサイトでご覧可能です。[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

- b 装置本体からジェル、残留物、および体液をすべて除去します。
- c 新しいワイプでモニタも含め装置本体を洗浄します。清潔な部分から汚染された部分へ向けて洗浄します。そうすることにより、相互汚染を防止できます。
- d 薬剤製造元が規定する最低湿潤接触時間を遵守します。装置本体の外表面が濡れていることを確認します。乾いた場合には、新しいワイプを使用して更に清拭します。
- e 通気の良い清潔な場所で装置本体を自然乾燥させます。
- 6 スタンドを洗浄し、残留物および体液をすべて除去します。
- 7 プローブおよびプローブケーブルを洗浄し、残留物および体液をすべて除去します。以下の手順に従います。

- a ウェットワイプまたは洗浄剤もしくは消毒剤で湿らせた柔らかい布を使用します。承認された洗浄剤リストから選択してください。

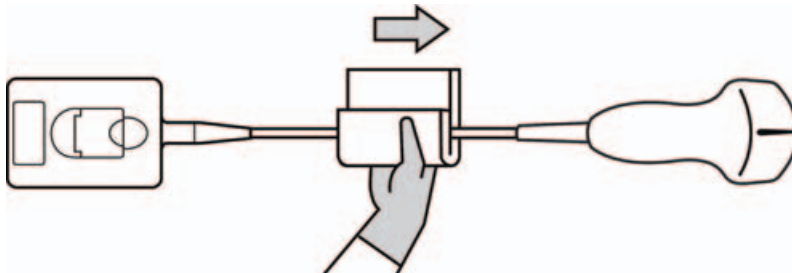
### プローブへの使用が承認されている洗浄剤・消毒剤

洗浄剤・消毒剤	適合性のあるプローブ	最低限の湿潤接触時間 <sup>a</sup>
SaniCloth AF3 <sup>b</sup>	C11xp, C35xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	3分
SaniCloth Plus	HFL38xp, HFL50xp, ICTxp	3分
PI-Spray II	C11xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	10分

a 最大限の有効性を得るためには、洗浄する機器の表面は、所定の最低湿潤接触時間、消毒剤で濡れた状態に保たなければなりません。

b マイコバクテリアに対する中水準の消毒剤として認められています。更に詳細な洗浄剤および消毒剤のリストは洗浄・消毒に関する文書に記載されており、ウェブサイトで閲覧可能です。[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

- b プローブからジェル、残留物、および体液をすべて除去します。
- c 新しいワイプでプローブおよびプローブケーブルを洗浄します。ケーブルからプローブ先端部へ向けて洗浄します。そうすることにより、相互汚染を防止できます。



**注意** | プローブコネクタの回路が液体で濡れないようにしてください。

- d 薬剤製造元が規定する最低湿潤接触時間を遵守します。外表面が濡れていることを確認します。乾いた場合には、新しいワイプを使用して更に清拭します。
- 8 装置本体およびプローブからジェル、残留物、および体液がすべて除去されたことを確認します。必要に応じて、新しいワイプを使用して上記手順5～7を繰り返します。

**警告** | ジェル、残留物、および体液が完全に除去されていないと、汚染物がプローブ表面に残留します。

## 9 消毒剤を調製します。

- a 承認された消毒剤リストからハイレベルの消毒剤を選択します。

### FC1 シリーズのプローブに適合性のあるハイレベル消毒剤

消毒剤 <sup>a</sup>	適合性のあるプローブ	温度	消毒剤への浸漬時間
Cidex	C11xp, C35xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	25°C, 77°F	45 分
Cidex OPA	C11xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	20°C, 68°F	12 分
Revital-Ox RESERT	C35xp	20°C, 68°F	8 分

更に詳細な洗浄剤および消毒剤のリストは洗浄・消毒に関する文書に記載されており、ウェブサイトでご覧可能です。[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

- b 消毒剤ボトルに表示されている使用期限を調べ、消毒剤の期限が切れていないことを確認します。
  - c 調製するか、または消毒剤が製造元の推奨する濃度であるかどうかを確認します。(例えば化学薬品の試験紙法)
  - d 消毒液の温度が製造元の推奨する温度条件内であることを確認します。
- 10 プローブのハイレベル消毒を行います。  
以下の手順に従います。

- a ハイレベル消毒液にプローブを浸漬します。

#### 警告

ハイレベル消毒剤を使用した場合、プローブから完全に除去しないと患者に害を与える恐れがあります。製造元の指示に従って、完全に薬剤を洗い流してください。

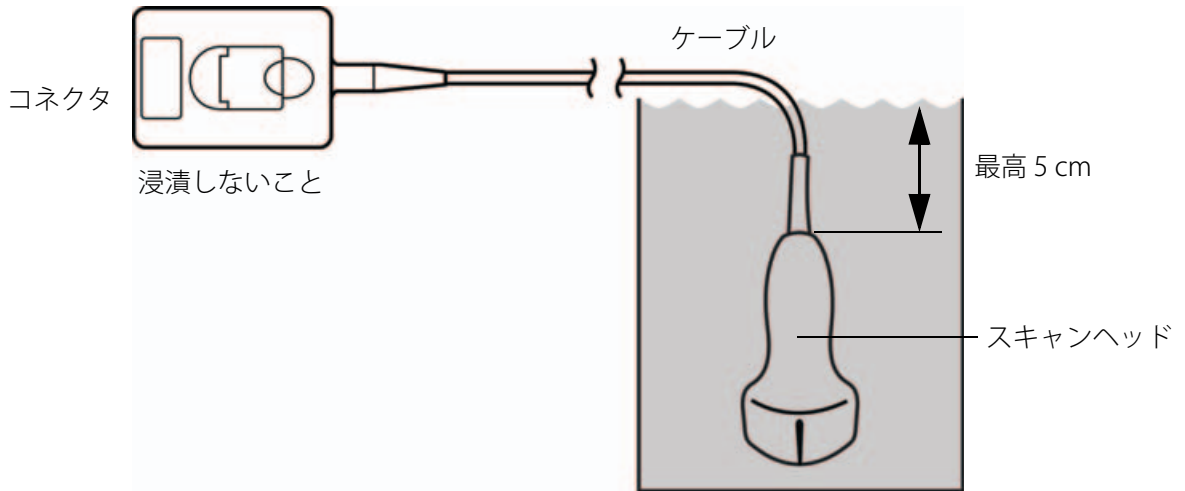
#### 注意

薬剤製造元が推奨する浸漬時間以上、プローブを浸漬しないでください。プローブコネクタを消毒液に浸漬しないでください。

当社が推奨する洗浄剤および消毒剤のみを使用してください。推奨されていない消毒剤を使用したり不適切な濃度で使用すると、プローブの損傷または変色の原因となり、保証が無効になる恐れがあります。



- b** プローブのコネクタおよびケーブルのほぼ全長が消毒液に浸漬されていないことを確認します。ケーブルは、プローブのスキャンヘッドに接続されている部分から最高 5 cm までは消毒液に浸漬可能です。



**図 8-1: プローブの各部名称**

**11** 以下の手順でプローブを 3 回洗い流します。

- a** 消毒剤製造元の指示どおり、清潔な流水で（最低 1 分間）プローブを洗い流します。
- b** コネクタおよびケーブルの最低 31-46 cm は消毒液に浸漬されていないことを確認します。
- c** 水を入れ替え、更に洗い流します。

**12** 滅菌リントフリークロス（無塵布）で拭いて乾かします。

**13** 消毒剤製造元の指示に従って、使用済みの消毒液を廃棄します。

**14** プローブおよびプローブケーブルに、液体が浸入する恐れのあるひび割れや亀裂等の破損がないことを点検します。

破損が明らかな場合はプローブの使用を中止し、当社または選任製造販売業者までご連絡ください。

## Option **B** 装置本体およびプローブのローレベル（低水準）洗浄および消毒（ノンクリティカル用途）

装置本体およびプローブが創のある皮膚、血液、粘膜、または体液に接触していない場合には、以下の手順に従い、洗浄および消毒してください。

### 警告

装置本体およびプローブが以下に列挙した内のいずれかと接触した場合には、ハイレベル洗浄および消毒を行ってください。「装置本体およびプローブのハイレベル（高水準）洗浄および消毒（セミクリティカル用途）」（493ページ）を参照してください。

- ▶ 血液
- ▶ 創のある皮膚
- ▶ 粘膜
- ▶ 体液

洗浄剤および消毒剤の使用方法については、必ず製造元の指示に従ってください。以下の手順に含まれる洗浄剤および消毒剤は、装置本体およびプローブに対し化学的適合性があります。特定の洗浄剤および消毒剤の使用に関しては、貴機関において適切な薬剤であることを確認してください。

### 警告

感電を防止するため、洗浄の前に装置本体を電源から切り離してください。保護用ゴーグルや手袋等、薬剤の製造元が推奨する適切な個人用保護具（PPE）を着用してください。

### 注意

洗浄剤や消毒剤は装置本体表面または本体のコネクタ部もしくはプローブコネクタに直接噴霧しないでください。液体が内部に浸入し損傷を来し、保証が無効になる恐れがあります。

当社が推奨する消毒剤のみを使用してください。推奨されていない消毒剤を使用したり不適切な濃度で使用すると、装置本体またはプローブの破損の原因となり、保証が無効になる恐れがあります。溶液濃度に関しては、消毒剤製造元の推奨事項に従ってください。

本章に記載されていない消毒方法や消毒剤でプローブやプローブケーブルを消毒しないでください。プローブの損傷および保証が無効になる恐れがあります。

## 装置本体およびプローブを洗浄・消毒する

- 1 電源ボタンを押して、装置本体の電源を切ります。
- 2 電源コードをコンセントから抜き取ります。
- 3 プローブカバーを使用した場合には、取り除きます。
- 4 装置本体からプローブを取り外します。装置本体を洗浄中、他の清潔な機器や表面を相互汚染することのない場所に一時的にプローブを置きます。
- 5 装置本体の外表面を洗浄し、残留物または体液を除去します。  
以下の手順に従います。
  - a ウェットワイプまたは洗浄剤もしくは消毒剤で湿らせた柔らかい布を使用します。承認された洗浄剤リストから選択してください。

## 装置本体への使用が承認されている洗浄剤・消毒剤

洗浄剤・消毒剤	最低限の湿潤接触時間 <sup>a</sup>
SaniCloth AF3 <sup>b</sup>	3分
SaniCloth Plus	3分
PI-Spray II	10分

a 最大限の有効性を得るためには、洗浄する機器の表面は、所定の最低湿潤接触時間、消毒剤で濡れた状態に保たなければなりません。

b マイコバクテリアに対する中水準の消毒剤として認められています。更に詳細な洗浄剤および消毒剤のリストは洗浄・消毒に関する文書に記載されており、ウェブサイトでご覧可能です。[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

- b 装置本体からジェル、残留物、および体液をすべて除去します。
  - c 新しいワイプでモニタも含め装置本体を洗浄します。清潔な部分から汚染された部分へ向けて洗浄します。そうすることにより、相互汚染を防止できます。
  - d 薬剤製造元が規定する最低湿潤接触時間を遵守します。装置本体の外表面が濡れていることを確認します。乾いた場合には、新しいワイプを使用して更に清拭します。
- 6 スタンドを洗浄し、残留物および体液をすべて除去します。
- 7 プローブおよびプローブケーブルを洗浄し、残留物および体液をすべて除去します。  
以下の手順に従います。

- a ウェットワイプまたは洗剤もしくは消毒剤で湿らせた柔らかい布を使用します。承認された洗剤リストから選択してください。

### プローブへの使用が承認されている洗剤・消毒剤

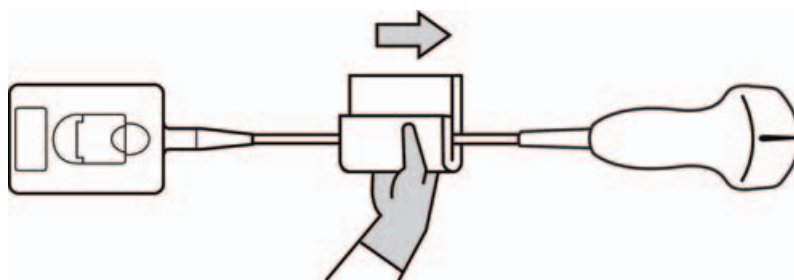
洗剤・消毒剤	適合性のあるプローブ	最低限の湿潤接触時間 <sup>a</sup>
SaniCloth AF3 <sup>b</sup>	C11xp, C35xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	3分
SaniCloth Plus	HFL38xp, HFL50xp, ICTxp	3分
PI-Spray II	C11xp, C60xf, HFL38xp, HFL50xp, ICTxp, L25xp, L38xp, P21xp	10分

a 最大限の有効性を得るためには、洗浄する機器の表面は、所定の最低湿潤接触時間、消毒剤で濡れた状態に保たなければなりません。

b マイコバクテリアに対する中水準の消毒剤として認められています。更に詳細な洗剤および消毒剤のリストは洗浄・消毒に関する文書に記載されており、ウェブサイトでご覧可能です。[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

- b プローブからジェル、残留物、および体液をすべて除去します。

- c 新しいワイプでプローブおよびプローブケーブルを洗浄します。ケーブルからプローブ先端部へ向けて洗浄します。そうすることにより、相互汚染を防止できます。



#### 注意

プローブコネクタの回路が液体で濡れないようにしてください。

- d 薬剤製造元が規定する最低湿潤接触時間を遵守します。外表面が濡れていることを確認します。乾いた場合には、新しいワイプを使用して更に清拭します。
- 8 装置本体およびプローブからジェル、残留物、および体液がすべて除去されたことを確認します。必要に応じて、新しいワイプを使用して上記手順5～7を繰り返します。
- 9 装置本体（コンソールを含む）およびプローブを通気の良い清潔な場所で自然乾燥させます。

10 装置本体、プローブおよびプローブケーブルに、液体が浸入する恐れのあるひび割れや亀裂等の破損がないことを点検します。

破損が明らかな場合はプローブの使用を中止し、当社または選任製造販売業者までご連絡ください。

## プローブの保管

### プローブを保管する

1 上記のセクションで詳説された手順どおり、プローブが洗浄および消毒されたことを確認します。

2 プローブは自然にまっすぐ垂れ下がるように吊り下げて保管します。

以下の注意事項を守ってください。

- ▶ 汚染プローブから離れた場所に保管してください。
- ▶ 通気の良い安全な場所に保管してください。結露が発生する可能性のある密閉容器にプローブを保管しないでください。
- ▶ 直射日光および X 線にさらさないでください。推奨保管温度条件は、0℃～+45℃です。
- ▶ 保管用壁掛けラックを使用する場合は、以下の事項を確認してください。
  - ▶ ラックが壁にしっかりと取り付けられていること。
  - ▶ 保管スロットはプローブおよびケーブルを損傷しないこと。
  - ▶ 不注意でプローブが落下しないように、ラックのサイズが適切であり、適切な位置に取り付けられていること。
  - ▶ コネクタ部が支持・固定されていること。

## プローブの運搬

プローブを運搬する際は、損傷から保護し、相互汚染を防止するための予防策を講じなければなりません。プローブは必ず、貴医療機関が承認する収納ケースに収納してください。

### 洗浄するために汚染プローブを運搬する

汚染プローブとは前検査で使用され汚染され、次の検査前に洗浄しなければならないプローブを意味します。

- 1 プローブを清潔な承認済みの収納ケースに入れます。

#### 警告

相互汚染および無防備なスタッフが生物由来物質にさらされることを防止するため、汚染プローブを持ち運ぶためのキャリングケースには、下図に類似する ISO 規格のバイオハザードラベルを表示してください。



#### 注意

収納ケースに収納する前に、プローブが乾燥していることを確認してください。濡れたプローブをケースに収納すると結露が生じ、コネクタが損傷する恐れがあります。

- 2 ケースに入れたプローブを洗浄作業台まで運びます。洗浄準備が整うまで、ケースを開けないでください。

#### 注意

プローブは、密閉収納ケース内に長時間放置しないでください。

### 清潔なプローブを運搬する

清潔なプローブとは、洗浄および消毒済みで、適切な方法で保管され、検査に使用できる状態のプローブを意味します。

- 1 プローブを清潔な承認済みの収納ケースに入れます。清潔なプローブであることを識別するために、収納ケースには、プローブが清潔であることを示す検証シールまたは証明書を表示してください。
- 2 清潔なプローブは収納ケースに入れたまま使用現場まで運びます。使用準備が整うまで、ケースを開けないでください。

### プローブを輸送する

#### 警告

汚染したプローブの輸送は極力避けてください。発送前に、本章に記載の手順に従って、または当社の特別な指示に従って、プローブが洗浄および消毒されていることを確認してください。プローブを FUJIFILM SonoSite, Inc. へ返却する際は、「Declaration of Cleanliness (清浄宣言書)」に消毒済みであることを記録し、梱包明細書に添付してください。

- 1 プローブを輸送用ケースに収納し密閉します。プローブのいかなる部分もケースからはみ出すことがないように注意してください。
- 2 以下の注意事項に従って、プローブを輸送します。

- ▶ 取扱注意が必要であることを、ケース上に明示してください。
- ▶ ケースの上に物を積み重ねないでください。
- ▶ 輸送時の温度条件を超えないでください：-35℃～+65℃
- ▶ 輸送中にケースを開けないでください。
- ▶ 受け取ったプローブは検査に使用する前に必ず洗浄および消毒しなければなりません。

## アクセサリ

スタンドまたはトリプル・プローブ・コネクタ（TTC）の洗浄および消毒については、「[スタンドまたはトリプル・プローブ・コネクタ（TTC）の洗浄および消毒](#)」（505 ページ）を参照してください。

フットスイッチの洗浄については、「[フットスイッチの洗浄](#)」（505 ページ）を参照してください。

ECG ケーブルの洗浄については、「[ECG ケーブルの洗浄](#)」（506 ページ）を参照してください。

ECG 接続ケーブルの洗浄については、「[ECG 接続ケーブルおよびアダプタキット ユーザーガイド](#)」を参照してください。

バッテリーの洗浄については、「[バッテリーの洗浄および消毒](#)」（507 ページ）を参照してください。

トラックボールの洗浄については、「[トラックボールの洗浄](#)」（507 ページ）を参照してください。

周辺機器の洗浄および消毒には、周辺機器製造元が推奨する洗浄剤および消毒剤を使用してください。

## アクセサリの洗浄および消毒

アクセサリは消毒前に洗浄してください。アクセサリの外表面は、推奨される消毒剤を使用して消毒することができます。ウェブサイトに掲載の洗浄・消毒に関する文書を参照してください。

[www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)

### 警告

感電を防止するため、パワーパークを洗浄する前に必ず電源を切り離してください。

### アクセサリを洗浄および消毒する

- 1 必要に応じ、電源コードをコンセントから抜き取り、接続されているケーブルをすべて取り除きます。
- 2 柔らかい布を刺激性のない石鹼水または洗浄液で軽く湿らせ、アクセサリの外表面を洗浄し付着している微粒子や体液を除去します。

溶液はアクセサリの外表面に噴霧せず布に湿らせます。

- 3 消毒剤濃度および接触時間に関してはラベル上の指示に従い、アクセサリに適合性のある消毒液を調製します。ウェブサイト ([www.sonosite.com](http://www.sonosite.com)) に掲載の洗浄・消毒に関する文書を参照してください。
- 4 調製した消毒液で外表面を清拭します。効果的な消毒を行うための露出時間や温度等、消毒液の使用については製造業者の指示に従ってください。
- 5 自然乾燥させるか、または清潔な布で拭いて乾燥させます。

## スタンドまたはトリプル・プローブ・コネクタ (TTC) の洗浄および消毒

### スタンドまたは TTC を洗浄および消毒する

スタンドまたは TTC の外表面は、推奨される洗浄剤または消毒剤を使用して洗浄および消毒することができます。

- 1 以下いずれかの手順を行います。
  - ▶ スタンドを洗浄する場合、電源アダプタを取り外し、装置本体に接続されているケーブルをすべて取り外し、装置本体をスタンドから抜き取ります。
  - ▶ TTC を洗浄する場合、スタンドのプラットフォームから取り外します。
- 2 柔らかい布を刺激性のない石鹼水または洗浄液で軽く湿らせ、外表面を洗浄します。

溶液はアクセサリの外表面に直接噴霧せず、布に湿らせます。
- 3 外表面を消毒液で清拭します。有効性が得られる露出時間および温度に関しては、消毒剤製造元の指示に従ってください。
- 4 自然乾燥させるか、または清潔な布で拭いて乾燥させます。

## フットスイッチの洗浄

### 注意

フットスイッチの損傷を防止するため、滅菌しないでください。滅菌環境での使用は意図されていません。

### フットスイッチを洗浄する

周辺機器製造元の指示に従い、推奨される消毒剤を使用してフットスイッチを消毒してください。

- 1 研磨性のない布を推奨される洗浄剤または消毒剤で湿らせます。
- 2 軽く濡れている程度に布を絞ります。汚れた部分を汚れが取れるまで優しくこすります。



## ECG ケーブルの洗浄

### 注

ECG ケーブルは再使用可能で、未滅菌で供給されます。

### ECG ケーブルを洗浄する

### 警告

ECG ケーブルはいかなる液体にも浸漬しないでください。

ECG ケーブルは以下の手順に従い、最高 15 回まで洗浄することができます。

- 1 装置本体からケーブルを取り外します。
- 2 柔らかい布またはガーゼを以下のいずれかの溶液で軽く湿らせます。
  - ▶ グリーンソープ
  - ▶ グリーンソープチンキ (アメリカ薬局方) または アルコールフリー石鹼
  - ▶ 2% グルタルアツデヒド溶液 (例 Cidex)
  - ▶ 次亜塩素酸ナトリウム (10% 漂泊液)溶液はアクセサリの外表面に直接噴霧せず、布に湿らせます。
- 3 湿らせた布で露出表面をすべて清拭します。
- 4 柔らかい布またはガーゼを使用して、手順 2～3 を繰り返します。
- 5 清潔な乾燥した布またはガーゼで露出表面をすべて拭いて乾燥させます。

### ECG ケーブルを滅菌する

### 注意

ECG ケーブルはオートクレーブ、ガンマ線照射、または蒸気で滅菌しないでください。

ECG ケーブルの損傷を防止するため、滅菌は必要な場合にのみに限ってください。ECG ケーブルは、滅菌を 10 回行った後、交換してください。

- 1 ECG ケーブルの滅菌にはエチレンオキシド (EtO) 滅菌方法を使用します。
- 2 ケーブルをエアレーションし、エチレンオキシドを消散させます。必要な安全措置に従います。

## バッテリーの洗浄および消毒

### 注意

バッテリーの破損を防止するため、洗剤や消毒剤がバッテリーターミナルに付着しないようにしてください。

### バッテリーを洗浄および消毒する方法（拭き取り方法）

- 1 バッテリーを本体から取り外します。
- 2 中性の石鹼水または洗剤で軽く湿らせた柔らかい布を使用してバッテリーの外表面を拭きます。

### 注

消毒剤は装置に直接吹き付けるのではなく、布に湿らせて使用します。

- 3 消毒剤でバッテリーの外表面を拭きます。

推奨の消毒剤は、Sani-Cloth HB、Sani-Cloth Wipes、または70%のイソプロピルアルコールです。

- 4 自然乾燥させます。

## トラックボールの洗浄

トラックボールの下に埃や塵などの異物が入り込んでしまった場合は、以下の手順に従ってトラックボールを取り出した後、装置の内部を清掃してください。トラックボールを洗浄する場合は、ユーザガイドを参照してください。

### トラックボールの取り出し方

- 1 トラックボールを固定しているフタを反時計方向に回して外し、持ち上げます。



図 8-2: トラックボールのフタを外す

トラックボールが露出します。



図 8-3: フタが外れた状態

2 トラックボールを取り出します。



図 8-4: トラックボールを取り出す